

第2期柏市中心市街地活性化基本計画

千葉県 柏市

平成26年4月

(平成26年3月28日認定)

平成27年3月27日変更

平成28年3月15日変更

平成29年3月24日変更

平成30年3月23日変更

目 次

○基本計画の名称	1
○作成主体	1
○計画期間	1
1. 中心市街地の活性化に関する基本的な方針	1
(1) 柏市における中心市街地の位置づけ	1
(2) 中心市街地の状況	4
(3) 第1期計画の検証	22
2. 中心市街地の位置及び区域	33
[1] 位置	33
[2] 区域	34
[3] 中心市街地要件に適合していることの説明	35
3. 中心市街地の活性化の目標	41
(1) 中心市街地活性化の基本理念と目標像	41
(2) 具体的な評価指標、数値目標の設定	43
4. 土地区画整理事業、市街地再開発事業、道路、公園、駐車場等の公共の用に供する施設の整備その他の市街地の整備改善のための事業に関する事項	59
[1] 市街地の整備改善の必要性	59
[2] 具体的事業の内容	59
5. 都市福利施設を整備する事業に関する事項	64
[1] 都市福利施設の整備の必要性	64
[2] 具体的事業の内容	64
6. 公営住宅等を整備する事業、中心市街地共同住宅供給事業その他の住宅の供給のための事業及び当該事業と一体として行う居住環境の向上のための事業等に関する事項	67
[1] 街なか居住の推進の必要性	67
[2] 具体的事業の内容	67
7. 中小小売商業高度化事業、特定商業施設等整備事業その他の商業の活性化のための事業及び措置に関する事項	69
[1] 商業の活性化の必要性	69
[2] 具体的事業等の内容	69
8. 4から7までに掲げる事業及び措置と一体的に推進する事業に関する事項	76
[1] 公共交通機関の利便性の増進及び特定事業の推進の必要性	76
[2] 具体的事業の内容	76
9. 4から8までに掲げる事業及び措置の総合的かつ一体的推進に関する事項	82
[1] 市町村の推進体制の整備等	82
[2] 中心市街地活性化協議会に関する事項	84
[3] 基本計画に基づく事業及び措置の一体的推進	92
10. 中心市街地における都市機能の集積の促進を図るための措置に関する事項	95

〔１〕 都市機能の集積の促進の考え方	95
〔２〕 都市計画手法の活用	95
〔３〕 都市機能の適正立地、既存ストックの有効活用等	96
〔４〕 都市機能の集積のための事業等	97
1 1. その他中心市街地の活性化のために必要な事項	99
〔１〕 基本計画に掲げる事業等の推進上の留意事項	99
〔２〕 都市計画との調和等	100
1 2. 認定基準に適合していることの説明	103

○ 基本計画の名称：第2期柏市中心市街地活性化基本計画

○ 作成主体：千葉県柏市

○ 計画期間：平成26年4月～平成31年3月（5年0月）

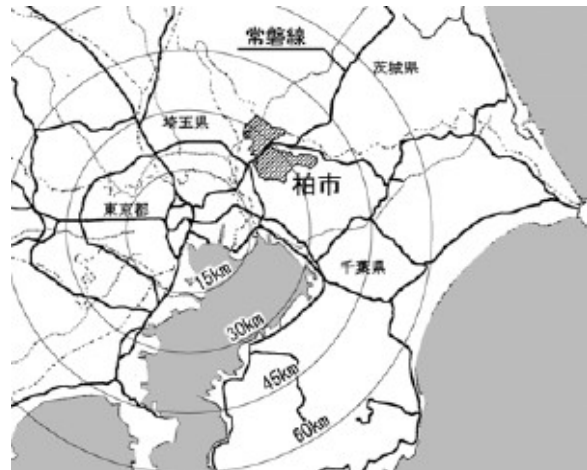
1. 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

（1）柏市における中心市街地の位置づけ

1) 柏市の概況

○東京都心から30km圏に位置

柏市は、首都圏東部、東京都心から30km圏に含まれ、千葉県北西部の東葛飾地域に位置している。隣接する市町村は、東側に我孫子市、印西市、茨城県取手市、南側に鎌ヶ谷市、白井市、西に松戸市、流山市、北に野田市、茨城県守谷市となっている。



○首都圏の交通の要衝

東京都心から放射状にJR東日本・常磐線、東京メトロ・千代田線及びつくばエクスプレスが、南北には東武野田線が通っている。

道路は、東京、茨城方面へ常磐自動車道と国道6号が、埼玉、千葉方面へ国道16号が通っており、首都圏の放射状と環状の交通幹線の交差部に位置する交通の要衝となっている。



○首都圏のベッドタウンとして発展

昭和29年の市制施行以来、著しい人口の流入による都市化が進んだ。そのなかで、昭和30年代のわが国初の大型住宅団地を初めとする住宅団地建設や工業団地への企業進出が図られた。

○住宅都市から広域的な商業拠点都市へ

常磐線の複々線化（昭和 46 年 4 月）、柏駅東口市街地再開発事業完成（昭和 48 年 10 月）を契機として、住宅都市から広域的な商業拠点都市への発展を遂げた。特に、柏駅に隣接して出店した「柏そごう（昭和 48 年 10 月：柏駅東口市街地再開発事業）」及び「柏高島屋（昭和 48 年 11 月）」という 2 つの百貨店は、千葉県北西部及び茨城県南部における商業力を決定づけ、以後、現在に至るまでその役割を担い続けている。



○都市成熟化、スポーツの盛んなまちへ

経済社会の成熟化に伴い単なる「生活の便利さ」のみならず「緑や水」、「うるおいとやすらぎ」といった快適な居住環境へのニーズが高まっている。

また、Ｊリーグのチームである「柏レイソル」のホームタウンとしても知られており、スポーツを通して地域の活性化と市民の交流を図る「スポーツによるまちづくり」を推進している。



○市町村合併～中核市に移行

平成 17 年 3 月に旧沼南町との合併により新「柏市」が誕生、同年 8 月に北部地域に「つくばエクスプレス」が開通し、本市の都市構造が変化している。こうした都市規模の拡大とともに、地方自治体及び地域住民の自己決定、自己責任の範囲の拡充など分権型社会に対応していくため、平成 20 年、中核市へ移行した。

○中心市街地としての賑いの充実

近年は、柏駅東口A街区における再開発事業をはじめ、広場や歩行者道路の整備、商店街を中心にしたイベント実施等が行われている。

■近年の商業活性化に係るまちづくり事業等

- ・ 柏駅東口A街区第二地区第一種市街地再開発事業（～H22年度）
- ・ 二番街商店会活性化事業（～H20年度）
- ・ 柏駅周辺活性化イベント事業（H20年度～）
- ・ 商店街振興共同事業（H20年度～）
- ・ （仮称）柏駅西口共同ビル事業（～H20.10）
- ・ 柏駅東口歩行者専用嵩上式広場改良事業（～H23年度）
- ・ 柏駅東口歩行者系都市計画道路整備事業（～H23年度）



■柏駅東口A街区第二地区

（２）中心市街地の状況

1）中心市街地に蓄積されている歴史的・文化的資源等の状況分析とその有効活用の方 法の検討

①歴史的・文化的資源について

○若者の集い・交流

今日の中心市街地は、若者が集うまちとしてのイメージが定着しているが、柏市は東京のベッドタウンとして開発が進み、位置的には東京通勤圏の北東、千葉県の西端であることから、かつてはあまり華やかなイメージは無く、歴史的にも浅いため、地域の人々に愛着をもって語られることは少なかった。

「若者が集うまち」への変化については、平成4年に「柏高島屋専門店街」が「柏高島屋ステーションモール」としてリニューアルオープンしたことが契機と考えられ、この頃から、若年層を中心とした来街者が年々増加した。

その後、「丸井柏店」が平成8年に新館を、平成11年に旧館を大幅なリニューアルのうえそれぞれオープンしたことにより、その傾向が顕著となった。若者が集うまちとしてのイメージが定着するとともに、裏通りには、若者向けの古着ショップやアクセサリショップ等が集まり、「裏カシ」と呼ばれる地区が誕生した。

近年では、BARやカフェなど、大人も楽しめる飲食店が増えており、今日の特徴ある中心市街地を形成するに至っている。



	平成 15 年	平成 17 年	平成 25 年
古着店	10	29	14
セレクトショップ	19	38	25
雑貨店	12	18	10
カフェ	0	17	24
BAR	—	—	20
計	41	102	93

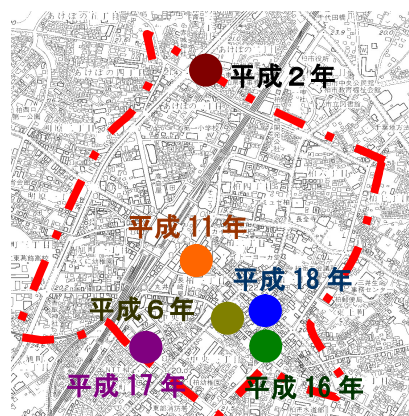
※柏市インフォメーション協会調べ

■ぶらカシMAP（柏市インフォメーション協会作成）

○音楽のまち

ダブルデッキ上においては、アコースティックギター1本で歌う「ストリート・ミュージシャン」の活動が目立つようになり、その中から、「Something Else」のようにメジャーデビューを果たすミュージシャンも現れた。ストリート・ミュージシャンの活動の活発化と時を同じくして、中心市街地にはライブハウスが相次いでオープンした。

現在、柏駅周辺は「音楽のまち」としてのイメージが定着している。ダブルデッキ上で演奏活動を行うストリート・ミュージシャンは、まちの大切な財産と位置づけられ、柏駅周辺は「柏ルール」(注2)によりストリート・ミュージシャンが活動しやすいまちとして知られている。



■ 中心市街地のライブハウスとオープンした年(柏市商工課調べ)

(注2) 平成17年3月に、柏駅周辺イメージアップ推進協議会が行政との話し合いにより、柏駅周辺においてストリート・ミュージシャンが活動する場所や時間、禁止事項等を取り決めたもの。ストリート・ミュージシャンは、ルールを守るという認定証の交付により路上ライブを堂々に行うことができる。

○オープンカフェ

千葉県柏市と柏駅東口商店街活性化推進協議会は、同駅東口広場の歩道上で、オープンカフェを実験的に開き、平成25年2月中の土日を中心に開設された。

駅前に休める場所を設けることで人の流れの変化などを検証し、今後の街づくりに生かす試みである。ウッドデッキを敷いた歩道にテーブルとパラソルを並べ、市民ボランティアがカフェを運営。設置された電子看板で街の情報なども提供された。利用者にも好評を得た。



■ 2013年2月4日 読売新聞記事より

○多様な主体によるまちづくり活動

中心市街地では、商業を営む人々が若者文化を柏の特徴及び賑わい創出の要素と捉え、若者とまちとの共生を図ろうと数々のイベント実施が試みられてきた。中でも、まちの商業者を中心に組織された「柏駅周辺イメージアップ推進協議会」では、ボランティア団体「ストリート・ブレイカーズ」と連携しながら、ダブルデッキにおいてミュージックパフォーマンスコンテストや、「裏カシ」地区の古着店等と連携したファッションコーディネートコンテスト等を実施することにより、まちの活性化を担っている。

「NPO法人柏市インフォメーション協会」では、行政の情報提供のみならず、地域の情報や「裏カシマップ」や「らーめんマップ」等を作成、発行、ゆるキャラ「カシワニ」を活用するなど独自の方法で、まちの文化・情報等について発信している。

近年では、平成18年4月、柏駅周辺の商業者を中心とした「JOBANアートラインプロジェクト柏実行委員会」が組織され、各種芸術・文化活動が行うなど、若者を中心としたこれまでの文化に加え、新たな文化の創出が期待されている。

防犯・防災活動も行われており、平成 15 年 3 月に設立された「柏駅周辺防犯推進協会」では、日本ガーディアン・エンジェルス柏支部等の防犯組織の支援や、各種団体と連携しながら、ゴミや落書きのないきれいなまちを目指して活動している。

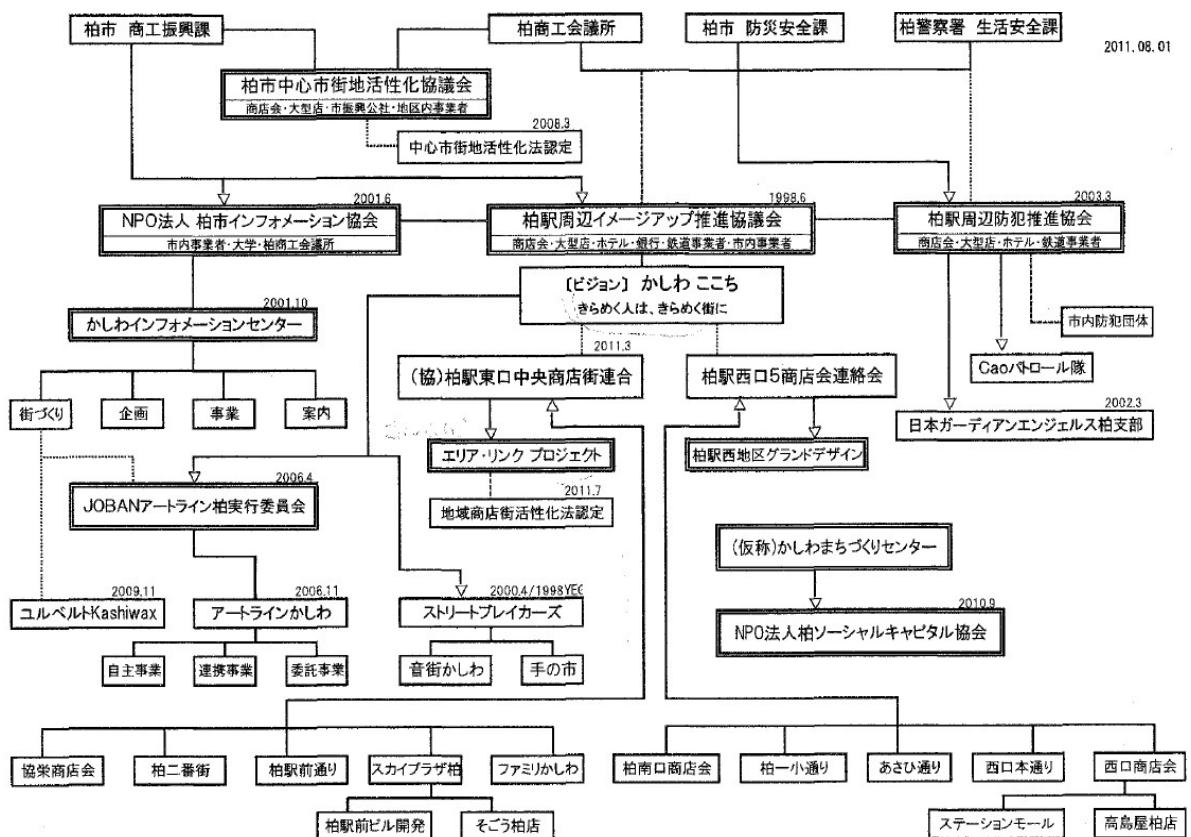
災害発生時に、大量の帰宅困難者が発生した柏駅について、関係機関と行政との連携により実効性ある対策を講じるため、平成 24 年には「柏駅周辺帰宅困難者等対策ネットワーク」が設立され、駅周辺の混乱防止と帰宅困難者等の安全確保が図られるようにしている。

なお、こうした活動の多くは、図表-2 に示す「街づくりのリレーションマップ」のように、それぞれが明確な目的と役割を持ち、かつ行政や商工会議所といった公的な組織とも連携しながら活動が実践されている。



■ 柏駅周辺帰宅困難者等対策ネットワークの会合

図表-2 街づくりのリレーションマップ (2011 年～)



②社会資本等

中心市街地には、商業施設の集積があるほか、市役所などの官公庁施設、教育、文化・スポーツ施設、病院等の医療機関の施設など様々な公共公益的施設が立地する。これらの数は、628 施設に及び、市全体に対する割合は約 20%程度を占めている。

また、施設の種別を個別に確認すると、特に中心市街地での割合が高いのは、金融業・保険業施設（52.0%）、公務（24.4%）となっている。

図表-3 柏市の主要公共公益施設数（柏市統計書 H24）

	市内全体 施設数	中心市街地内 施設数	中心市街地内の シェア
公務	45	11	24.4%
教育、学習支援	603	117	19.4%
生活関連サービス・娯楽	1,228	244	19.9%
医療、福祉	914	148	16.2%
複合サービス	43	3	7.0%
金融、保険	202	105	52.0%
公共公益施設合計	3,035	628	20.7%

2）地域の現状に関する統計的なデータの把握・分析

①人口に関する現状分析

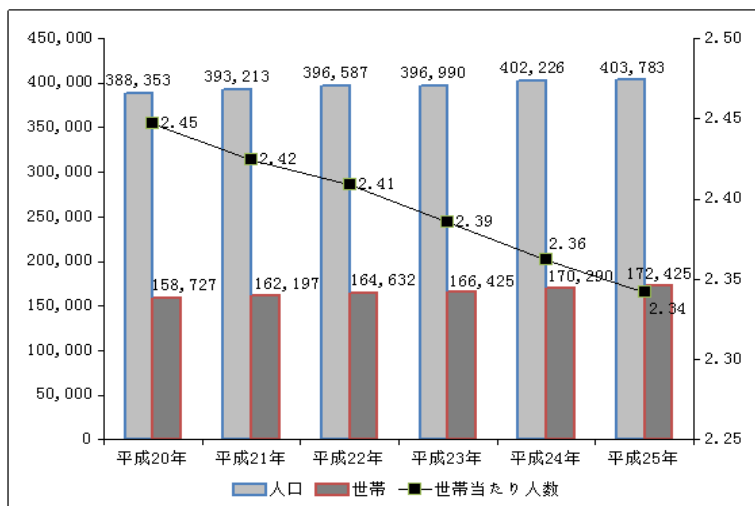
イ. 人口・世帯数の状況

○柏市の状況

柏市の住民基本台帳人口は、平成 25 年 9 月末現在 403,783 人となっている。また、昭和の大合併時期の昭和 30 年と比較すると、旧沼南地域を含め大幅に人口が増加。近年も引き続き人口の増加が続いている。

世帯数については、平成 25 年 9 月末現在において、172,425 世帯となっている。人口と同様に昭和 30 年と比較から大幅に増加している。近年も、人口と同様に、引き続き増加を続けている。しかし、1 世帯当りの人員をみると、2.34 人となっており、昭和 30 年の 1 世帯当り人員のほぼ半分を割りこみ、一層の核家族化が進んでいる。

図表-4 柏市の人口、世帯数、世帯当たり人数（住民基本台帳）

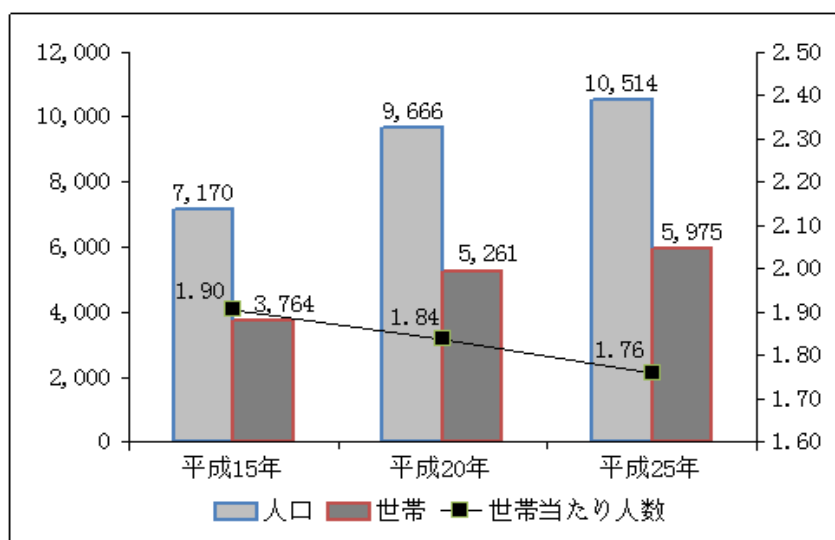


昭和 30 年国勢調査結果	
人口	45,020 人
世帯数	8,586 世帯
1 世帯当り	5.2 人/世帯

○中心市街地の状況

中心市街地の住民基本台帳人口（各年度 9 月 30 日現在）は平成 15 年 7,170 人から平成 25 年には 10,514 人となり、約 1.5 倍の増加を示している。町丁目別に近年の動向をみると、平成 20 年～平成 25 年では、柏 2 丁目、柏 3 丁目、柏 5 丁目の増加率が高くなっている。

図表-5 人口、世帯数、世帯当たり人員の推移（住民基本台帳）



図表-6 町丁目別人口・世帯数の状況（住民基本台帳）

	平成 20 年		平成 25 年		増減率	
	人口	世帯	人口	世帯	人口	世帯
東 上 町	1,213	635	1,280	713	1.06	1.12
柏 5 丁 目	750	381	840	470	1.12	1.23
あけぼの 1 丁 目	704	380	734	421	1.04	1.11
旭 町 1 丁 目	1,027	555	1,069	583	1.04	1.05
柏 1 丁 目	73	29	63	29	0.86	1.00
柏 2 丁 目	499	348	897	544	1.80	1.56
柏 3 丁 目	1,482	840	1,661	967	1.12	1.15
柏 4 丁 目	339	193	338	194	1.00	1.01
柏 6 丁 目	1,202	635	1,270	720	1.06	1.13
末 広 町	343	202	353	215	1.03	1.06
中 央 1 丁 目	1,003	527	986	549	0.98	1.04
中 央 町	1,031	536	1,023	570	0.99	1.06
合 計	9,666	3,945	10,514	5,975	1.09	1.51

ロ. 年齢別人口

国勢調査による平成22年現在の柏市の人口を性別にみると男性201,045人、女性202,967人、計404,012人となっている。

また年齢別に年少人口（15歳未満）、生産年齢人口（15～64歳）、老年人口（65歳以上）の3区分に分類すると、それぞれ54,571人（13.6%）、267,374人（66.5%）、80,129人（19.9%）となっている。

これらを、平成17年と比較すると、総人口の増加とともに各実数は増加しているが、生産年齢人口割合が減少、年少人口及び老年人口の割合は増加しているため、老年人口指数（老年人口／生産年齢人口）の更なる増加がみられる。

図表-7 年齢別人口等（国勢調査）

	平成17年		平成22年	
	柏市(人)	総数に対する割合(%)	柏市(人)	総数に対する割合(%)
総数	380,963	100.0	404,012	100.0
男性	190,138	49.9	210,045	49.8
女性	190,825	50.1	202,967	50.2
年少人口 (15歳未満)	51,186	13.4	54,571	13.6
生産年齢人口 (15歳～64歳)	266,831	70.0	267,374	66.5
老年人口 (65歳以上)	62,383	16.4	80,129	19.9
年少人口指数	19.2	—	20.4	—
老年人口指数	23.4	—	30.0	—
老年化指数	121.9	—	146.8	—
高齢化率	16.4	—	19.8	—

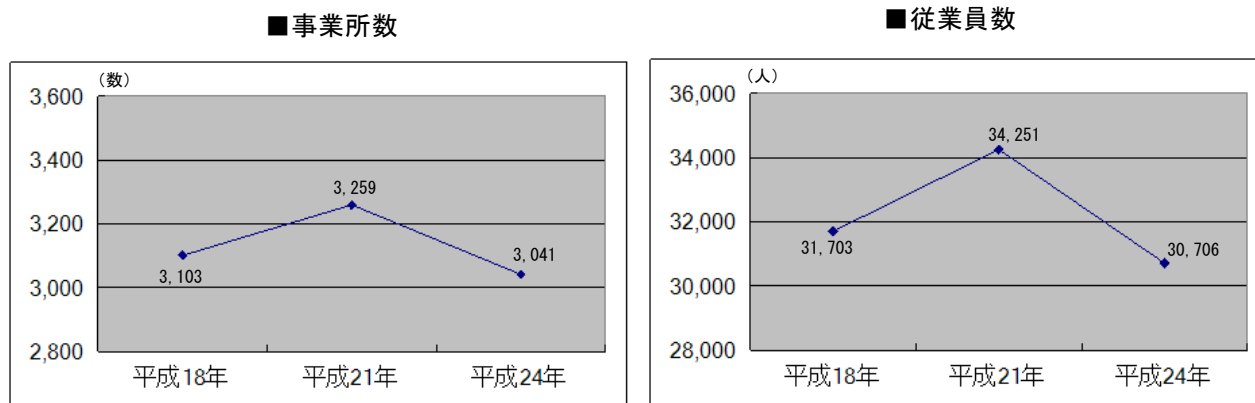
②商業に関する現状分析

イ. 商業指標の状況

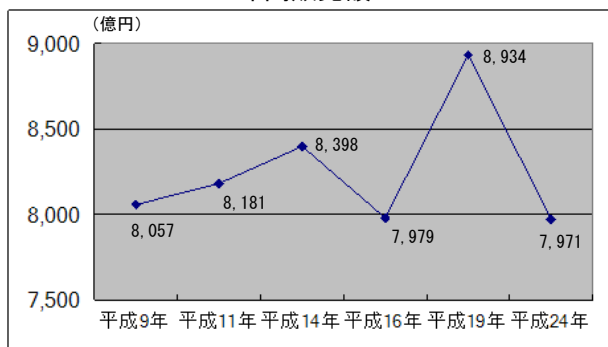
○柏市の状況

柏市全域でみた卸売業・小売業の状況は、若干の衰退傾向を示している。事業所数・従業員数では、平成21年に増加したが、平成24年では減少し、平成18年を下回っている。年間販売額は平成16年に減少傾向となり、平成19年に増加したが、平成24年には再び減少している。

図表-8 市域全体における卸売業・小売業の状況（経済センサス基礎調査・商業統計調査）



■ 年間販売額

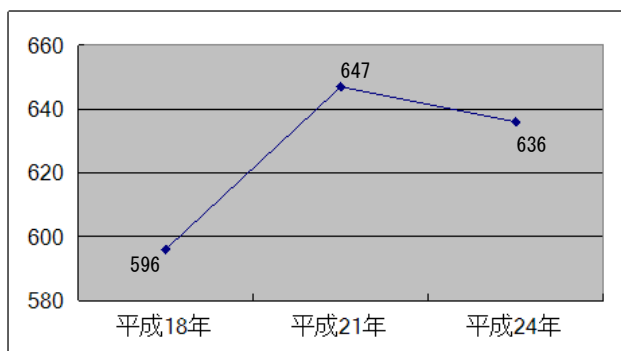


○ 中心市街地の状況

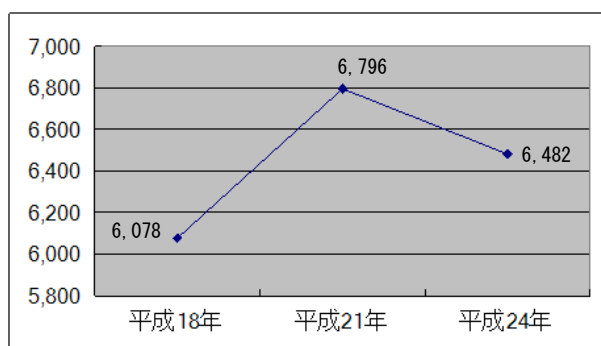
中心市街地における卸売業・小売業指標をみると、事業所数・従業員数が平成18年から平成21年で増加し、平成24年で減少している。年間販売額については、減少傾向であるが、平成22年からは減少も横ばい状態になりかけている。売場面積は商業施設の完成により平成21年に増加したが、その後は横ばい状態である。

図表-9 中心市街地における卸売業・小売業の状況（経済センサス基礎調査・商業統計調査）

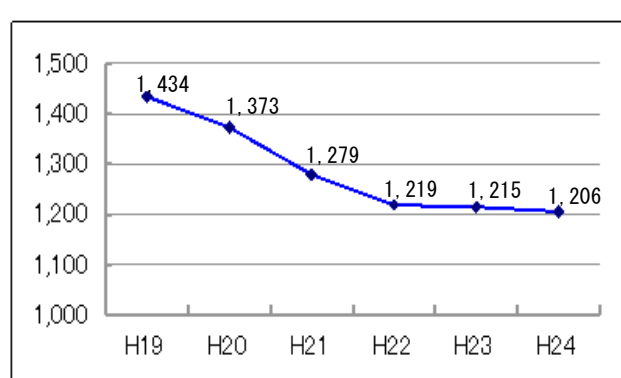
■ 事業所数



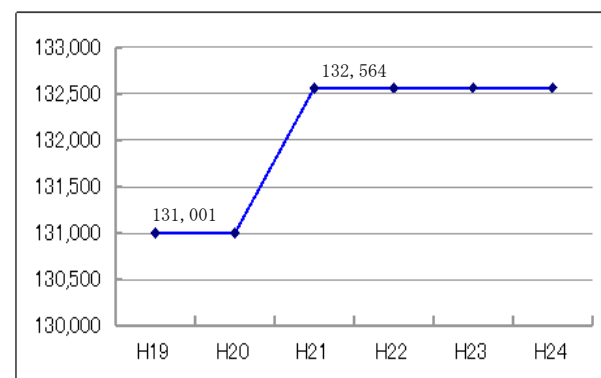
■ 従業員数



■ 年間販売額（※推計値）



■ 売場面積（※推計値）



※平成19年商業統計の結果をベースとして、毎年柏駅周辺の大型店へのアンケート調査等を行うことにより算出した推計値

図表-10 町丁・大字別集計（H24 経済センサス）

	卸売業・小売業	
	事業所数（数）	従業員数（人）
あけぼの1丁目	9	50
旭町1丁目	52	375
中央1丁目	23	87
中央町	24	361
東上町	29	221
柏1丁目	170	2,086
柏2丁目	47	440
柏3丁目	52	247
柏4丁目	26	198
柏5丁目	6	42
柏6丁目	15	119
末広町	183	2,256
合 計	636	6,482

ロ. 商店街の状況

柏駅周辺の商業地形成は、昭和48年の日本初のペデストリアンデッキの完成と、柏駅東口市街地再開発事業を契機に、東口に「そごう」、西口に「高島屋」の2つの百貨店が進出。これを核にして、放射状に路面型商店街が延伸し形成されてきた。

現在も柏駅を取り囲むように複数の大型店が立地し、中心市街地内において16の商店会が柏駅から放射方向に立地している。

図表-11 商店街の分布状況

No.	名 称
①	あさひ通り商店会
②	柏一小通り商店会
③	柏駅前通り商店街振興組合
④	柏銀座通り商店会
⑤	柏本町通り商店会
⑥	協栄商店会
⑦	スカイプラザテナント会
⑧	柏南口商店会
⑨	商店街振興組合柏二番街商店会
⑩	セントラルパル商店会
⑪	西口商店会
⑫	西口本通り商店会
⑬	柏駅前第一商業協同組合
⑭	東パル街商店会
⑮	柏市役所通り商店会
⑯	長全寺商店会



ハ. 大型小売店の状況

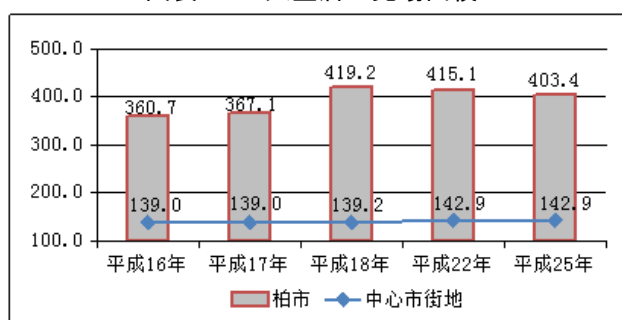
中心市街地に立地している面積 1,000 m²以上の大型店は、下表のとおりであり、おおよそ昭和 30～40 年代に立地したものが多くなっている。平成 16 年以降については新規の立地がみられない。

図表-12 大型小売店の状況（大規模小売店舗調査(平成 22 年版)）

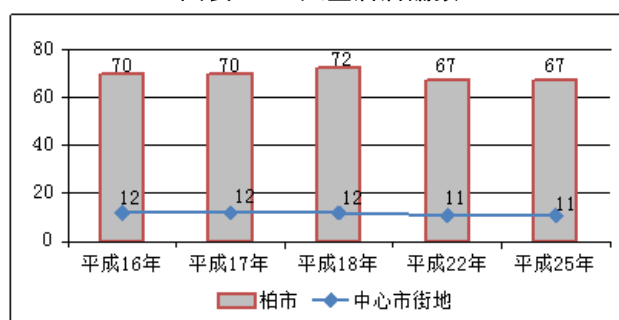
名 称	所 在	店舗面積 (m ²)	延面積 (m ²)	開設
インテリアカーサ柏店	中央町 2-1-4	3,535	3,999	昭和 38 年
柏駅前第一ビル(丸井柏VAT)	柏 1-1-11	10,729	23,593	昭和 39 年
サンキ柏店	中央町 2-8	1,495	1,780	昭和 40 年
長崎屋サンSC柏店	柏 1-3-1	10,278	16,826	昭和 42 年
柏共同ビル(カルチエ5新星堂ビル)	柏 1-2-31	3,506	6,557	昭和 45 年
イトーヨーカドー柏店	柏 2-15	10,513	17,697	昭和 46 年
スカイプラザ柏(そごう柏店)	柏 1-1-21	39,729	73,057	昭和 48 年
サンキ ニューサンキ店	柏 1-4-6	1,994	3,058	昭和 52 年
柏高島屋ステーションモール	末広町 3-16	48,698		昭和 54 年
丸井柏店	柏 1-822-14	10,590	19,687	平成 8 年
システムランドビル(タワーレコード柏店)	柏 1-2-8	1,881		平成 16 年

また、大型店の状況を柏市全体から比較してみると、店舗数の推移は概ね同様だが、売場面積では平成 17～18 年で柏市全体は大きく伸びたが、中心市街地では横ばい傾向となっている。

図表-13 大型店の売場面積



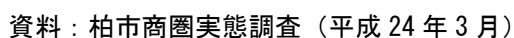
図表-14 大型店店舗数



資料 柏市調べ、全国大型小売店総覧

平成 24 年 3 月の商圈実態調査によると、柏市の商圈人口は 252.4 万人、吸引人口は 64.8 万人、吸引率は 25.7%となっている。平成 18 年調査と比較すると、商圈人口は増加しているが吸引人口、吸引率は減少している。

行政区画図の出典:「国土数値情報(行政区画データ) 国土交通省」

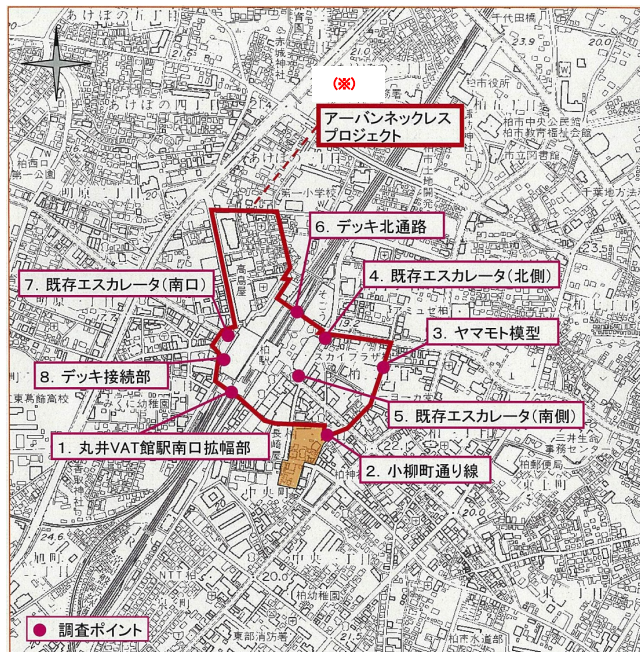


ホ. 通行量

平成 25 年 3 月実施の柏駅周辺歩行者通行量調査結果により、中心市街地における歩行者通行の状況を見ると、全調査地点の合計は 77,162 人となっている。平成 19 年調査結果から比較すると減少傾向となっているが、東日本大震災後に調査した平成 23 年 5 月と比較すると 5,967 人の増加となっている。

図表-16 歩行者通行量調査地点の位置

	調査地点名	商店会
1	丸井 VAT 館駅南口拡幅部	柏駅前第一商業協同組合
2	小柳通り線	—
3	ヤマモト模型	協栄商店会
4	既存エスカレータ（北側）	スカイプラザテナント会
5	既存エスカレータ（南側）	スカイプラザテナント会
6	デッキ北通路	—
7	既存エスカレータ（南口）	西口商店会
8	デッキ接続部	あさひ通り商店会



(※) アーバンネックレスプロジェクトとは、駅核の力と放射方向の力を相互補完させながら、周辺に広げていくため、柏駅を中心とする 200～300m 圏に環状方向の歩行者空間を整備し、1本の輪（ネックレス）でつなげることである。
[旧中心市街地基本計画(平成 12 年 3 月)]

図表-17 歩行者通行量調査結果総括表

日時	天気	地点 1	地点 2	地点 3	地点 4	地点 5	地点 6	地点 7	地点 8	合計
平成 19 年 4 月 1 日(日)	晴	22,903	7,102	3,704	4,569	22,406	6,075	13,217	4,965	84,941
平成 20 年 3 月 30 日(日)	曇のち雨	23,619	6,984	3,543	4,222	22,586	6,523	13,839	3,236	84,552
平成 21 年 3 月 29 日(日)	晴	21,445	6,201	3,745	4,320	23,002	6,350	14,827	4,756	84,646
平成 22 年 3 月 28 日(日)	晴のち曇	22,852	6,811	2,893	3,214	21,660	5,761	12,265	4,459	79,915
平成 23 年 5 月 22 日(日)	曇のち雨	21,003	6,102	2,284	3,747	21,431	3,703	9,528	3,397	71,195
平成 24 年 5 月 20 日(日)	晴時々雨	18,059	7,687	3,757	5,896	21,270	4,630	12,155	5,231	78,685
平成 25 年 3 月 31 日(日)	雨	22,549	6,882	3,104	5,656	18,364	4,730	11,152	4,725	77,162

図表-18 8 地点の合計比較

【全体】	平成 23 年 5 月 22 日	平成 25 年 3 月 31 日	増減率 (%)
合 計	71,195	77,162	108.4

資料 歩行者通行量調査（平成 25 年 3 月）

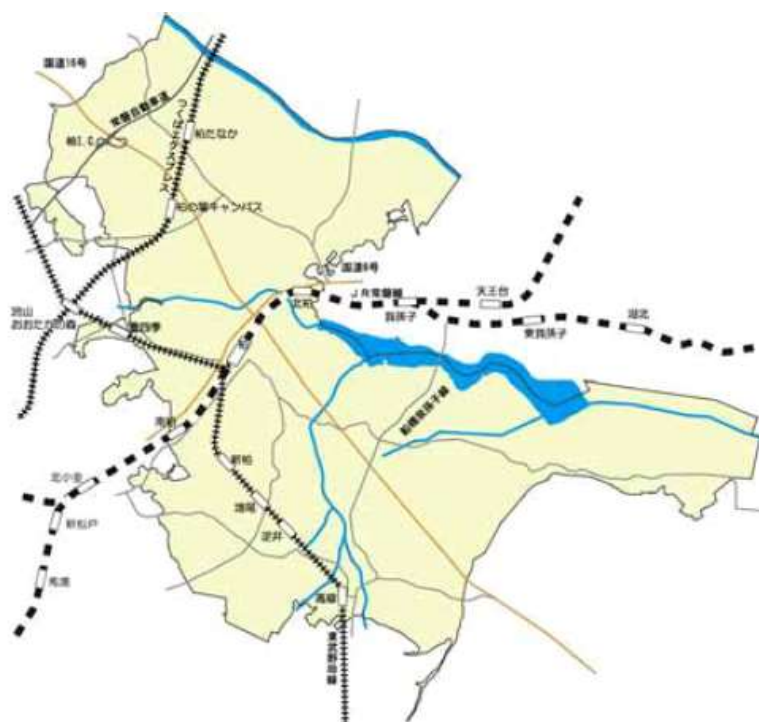
③交通に関する状況

イ. 鉄道

柏市は、ＪＲ東日本と東武鉄道の２つの鉄道があり、市内にはＪＲ線が３駅、東武鉄道線が６駅ある。また、平成１７年８月につくばエクスプレスが開業、市内に「柏の葉キャンパス駅」及び「柏たなか駅」の２駅が設置されている。

平成２４年度のＪＲ線各駅の一日常乗客数は、約１７０千人、東武鉄道各駅の１日平均乗客数は、約１０６千人、計で約２７６千人となる。また柏駅は、ＪＲ東日本と東武鉄道両駅が同じ駅舎にあり、両社柏駅の乗客数は、一日平均約１８８千人で、柏市全体の乗降客数の約６８％を占めている。つくばエクスプレス線の２駅の１日平均乗車人員は、平成２４年度で約１６千人である。

図表-１９ 鉄道網の状況



図表-２０ 各鉄道駅の平成２４年度１日平均乗車人員（人／日）

■ＪＲ東日本線（ＪＲ東日本東京支社）

柏駅	南柏駅	北柏駅
119,064	31,616	19,243

■東武鉄道線（東武鉄道株式会社営業部審査課）

柏駅	豊四季駅	新柏駅
69,343	7,073	9,688
増尾駅	逆井駅	高柳駅
6,599	6,981	6,191

■つくばエクスプレス線（首都圏新都市鉄道株式会社）

柏の葉キャンパス駅	柏たなか駅
11,677	2,786

口. 公共交通

柏市の路線バスの運行状況をみると、柏駅を中心にした、放射状のネットワークとなっており、JR 線以西の地域で運行本数が多くなっている。

図表-21 路線バス等の状況



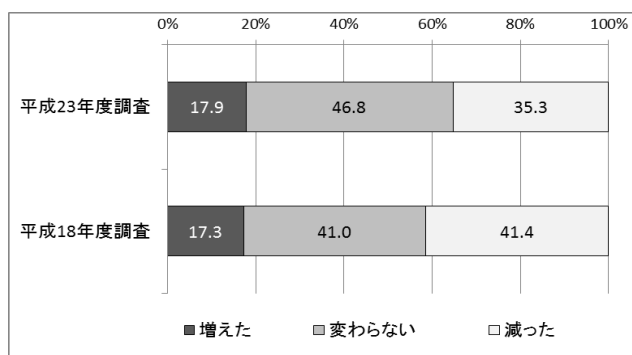
④地域住民のニーズに関する状況

平成 24 年 3 月の柏市商圈実態調査により、柏駅周辺商業施設での買物頻度の変化をみると、「増えた」17.9%に対して「減った」が35.3%となっている。平成 18 年調査と比較すると、「増えた」の割合は若干増加、「減った」割合も低下しており、若干の改善傾向はうかがえる。

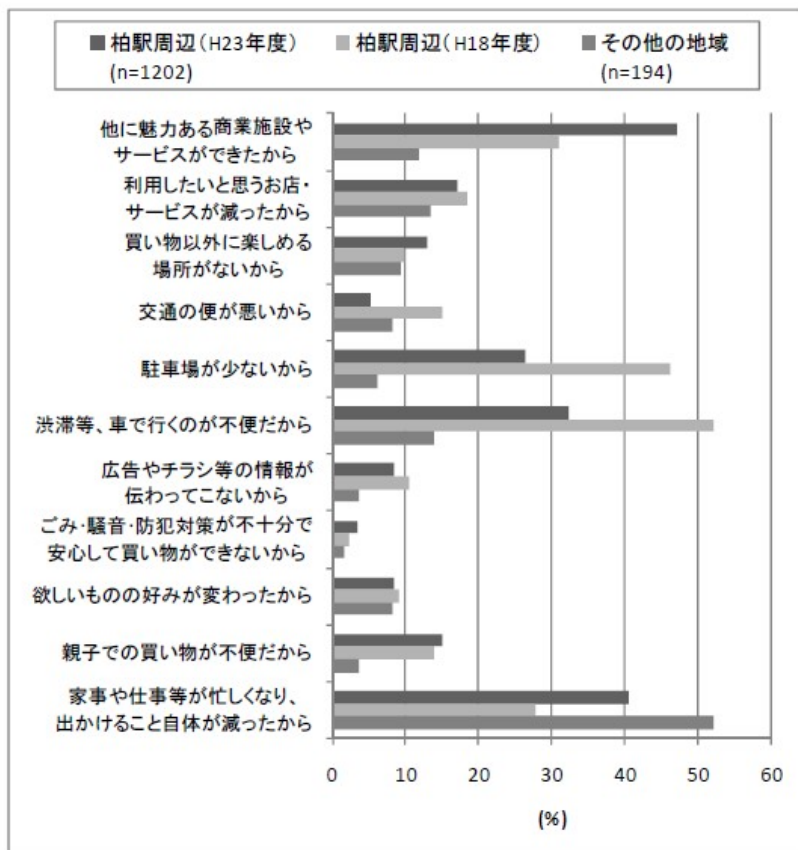
柏駅周辺での買物頻度が減った理由として、「他に魅力ある商業施設やサービスができたから」や「渋滞等、車で行くのが不便だから」などがあがっている。

平成 18 年調査との比較では、「他に魅力ある商業施設やサービスができたから」、「家事や仕事等が忙しくなり、出かけること自体が減ったから」という理由以外の回答率はほとんど低下しており、中心市街地以外に進出した店舗やサービス等が中心市街地の商業施設よりも魅力的であることがうかがえる。

図表-22 柏駅周辺商業施設での買い物頻度の変化(柏市商業実態調査(平成 24 年 3 月))

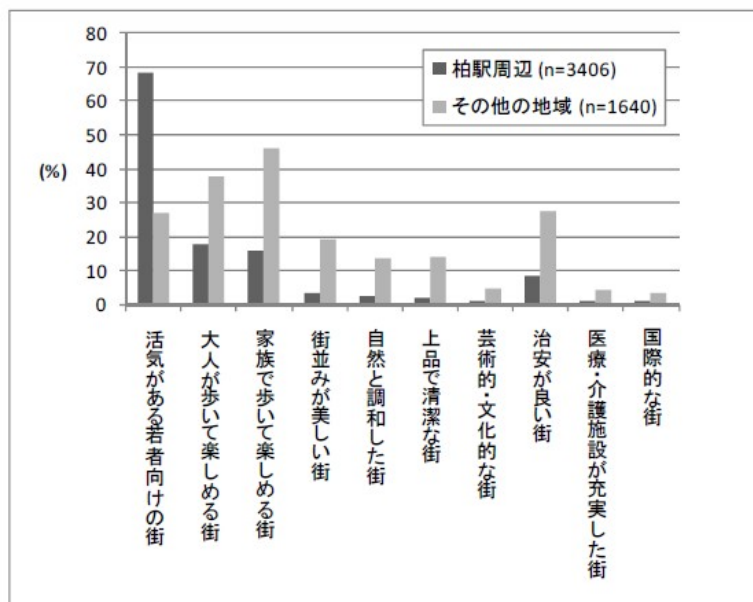


図表-23 柏駅周辺商業施設での買物頻度低下理由(柏市商業実態調査(平成 24 年 3 月))



同調査結果から、柏駅周辺のイメージに関する回答集計結果をみると、「活気がある若者向けの街」が大多数となっているが、次いで「大人が歩いて楽しめる街」、「家族で歩いて楽しめる街」となっている。

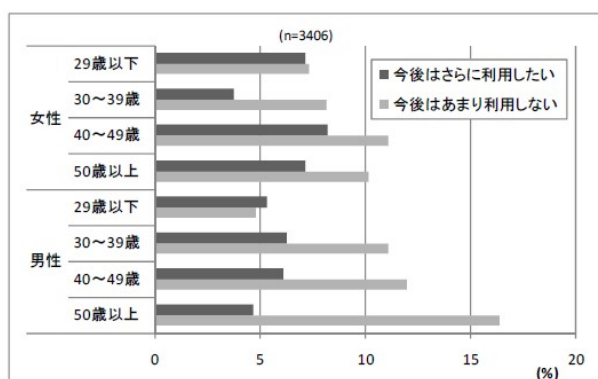
図表-24 柏駅周辺のイメージ（柏市商業実態調査（平成 24 年 3 月））



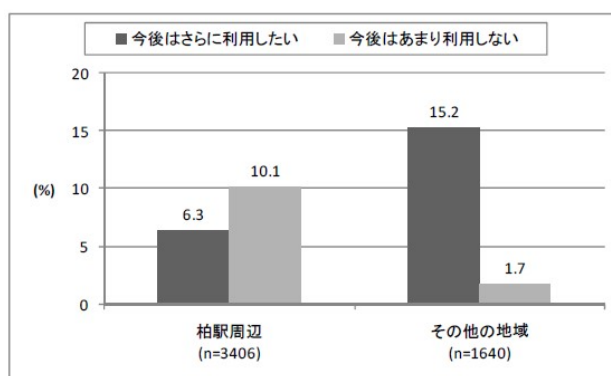
柏駅周辺利用者の 10.1%は、今後はあまり利用しないと回答している。なかでも 50 歳以上の男性の回答割合が高く、15%を超えている。また柏駅周辺とその他の地域の平均と比較すると、今後はあまり利用しないという回答率が高くなっている。

図表-25 今後の柏駅周辺利用意向（柏市商業実態調査（平成 24 年 3 月））

■性別・年代別

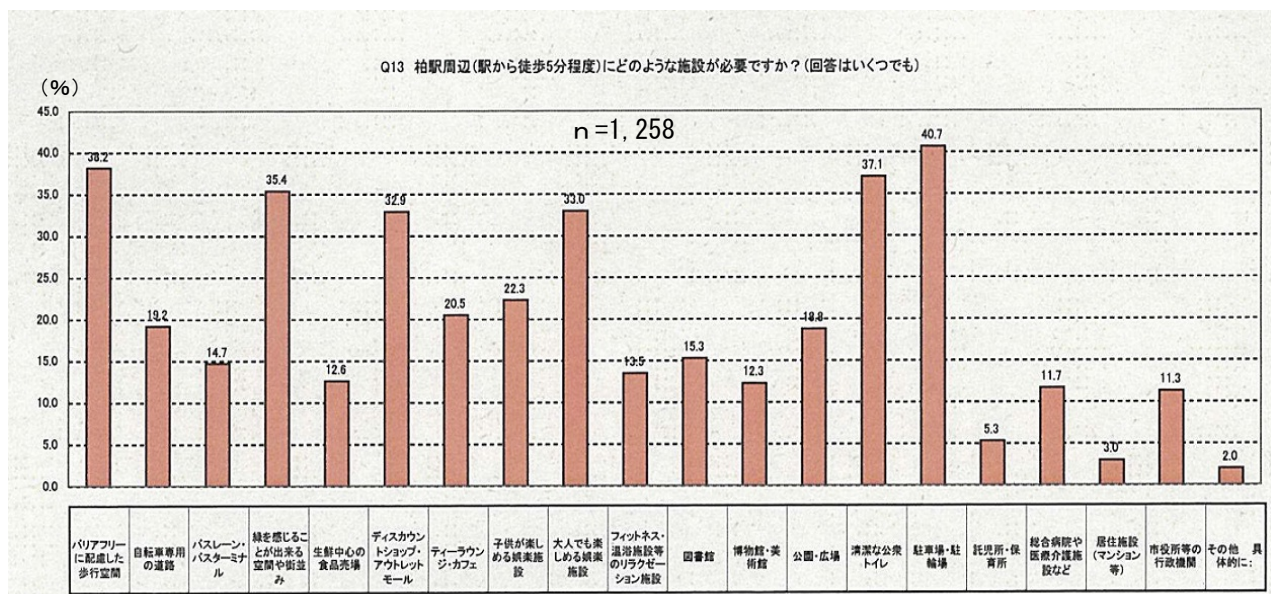
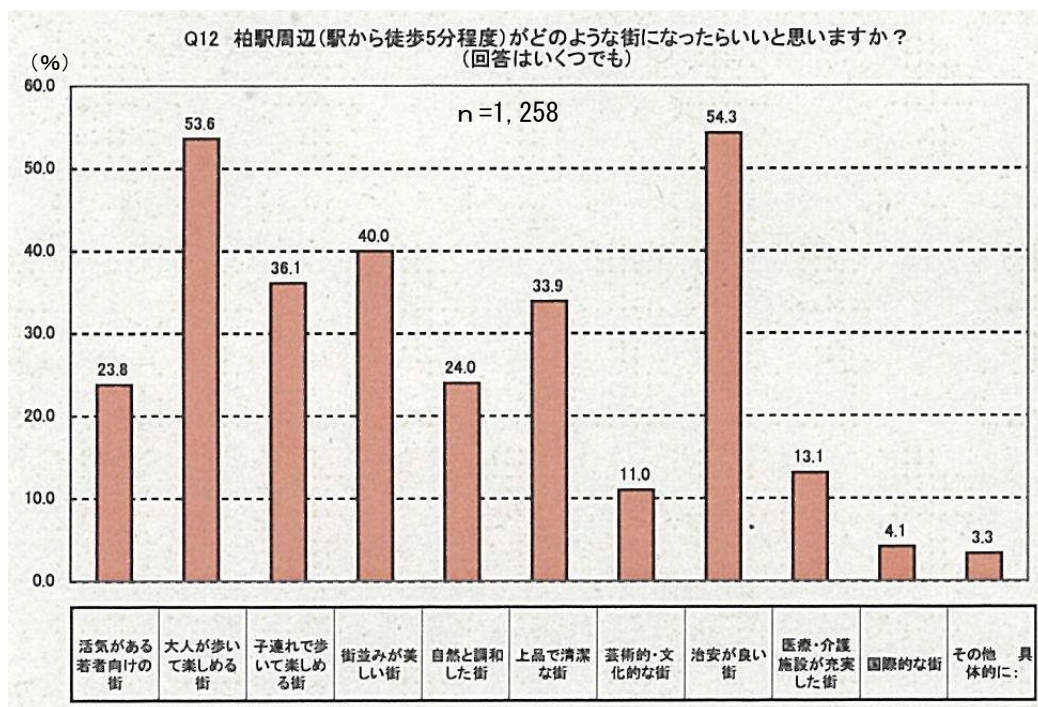


■地域別



また、平成 25 年 10 月に実施した平成 25 年度柏市中心市街地活性化意識調査業務委託結果では、柏駅周辺について、「大人が歩いて楽しめる街」「治安が良い街」を求めている人が多く、必要な施設についても、「駐車場・駐輪場」「バリアフリーに配慮した歩行空間」「清潔な公衆トイレ」「緑を感じることが出来る空間や街並み」等を求めている人が多い結果となっている。

平成 25 年度柏市中心市街地活性化意識調査業務委託結果



図表-28 柏市及び周辺都市の主な大規模店舗の状況（大規模小売店立地法に係る届出状況）

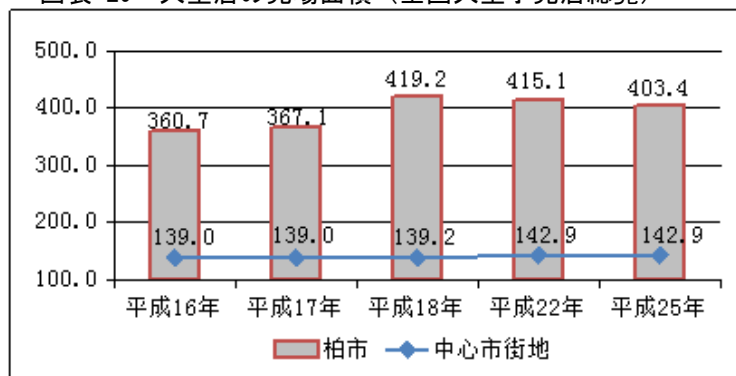
店舗名	開店・新設日	住所	売場面積(㎡)
モラージュ柏(ホームセンター、ヤオコー他)	平成 16 年 6 月	柏市大山台	24,059
南柏南口ビル(マミーマート他)	平成 17 年 11 月	柏市豊四季	9,498
イオン南柏 SC	平成 18 年 3 月	柏市豊町	24,933
柏の葉キャンパス駅前 SC	平成 18 年 11 月	柏市若葉	26,690
流山おおたかの森 SC	平成 19 年 3 月	流山市西初石	25,333
イオンレイクタウン	平成 20 年 9 月	越谷市東町	130,995
IKEA新三郷	平成 20 年 11 月	三郷市新三郷ららシティ	25,725
ららぽーと新三郷・コストコホールセール	平成 21 年 9 月	三郷市新三郷ららシティ	46,822
フィールズ南柏	平成 23 年 1 月	柏市南柏中央	9,498
イオンレイクタウンアウトレット	平成 23 年 4 月	越谷市東町	21,542
Forever21(ららぽーと新三郷ANNEX)	平成 24 年 4 月	三郷市新三郷ららシティ	3,124
コストコホールセール	平成 25 年 7 月	印西市草深	9,976
カインズモール千葉ニュータウン	平成 25 年 9 月	印西市南西ヶ作	23,135

○柏市中心市街地の商業機能停滞化

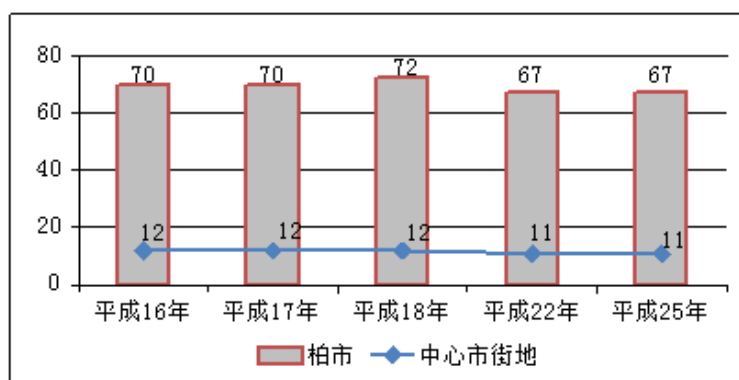
近年の周辺環境の変化により、前述したように、相対的に鉄道駅利用状況や歩行者通行量の低下にみられる、柏駅を中心とする中心市街地の来街者動向に影響を与えているものと考えられる。

また、大型店の状況を柏市全体と中心市街地で比較してみると、推移は概ね同様であるが、柏市全体では平成 17 年～18 年で売場面積が大きく伸びたが、中心市街地では横ばい傾向となっている。

図表-29 大型店の売場面積（全国大型小売店総覧）



図表-30 大型店店舗数（全国大型小売店総覧）



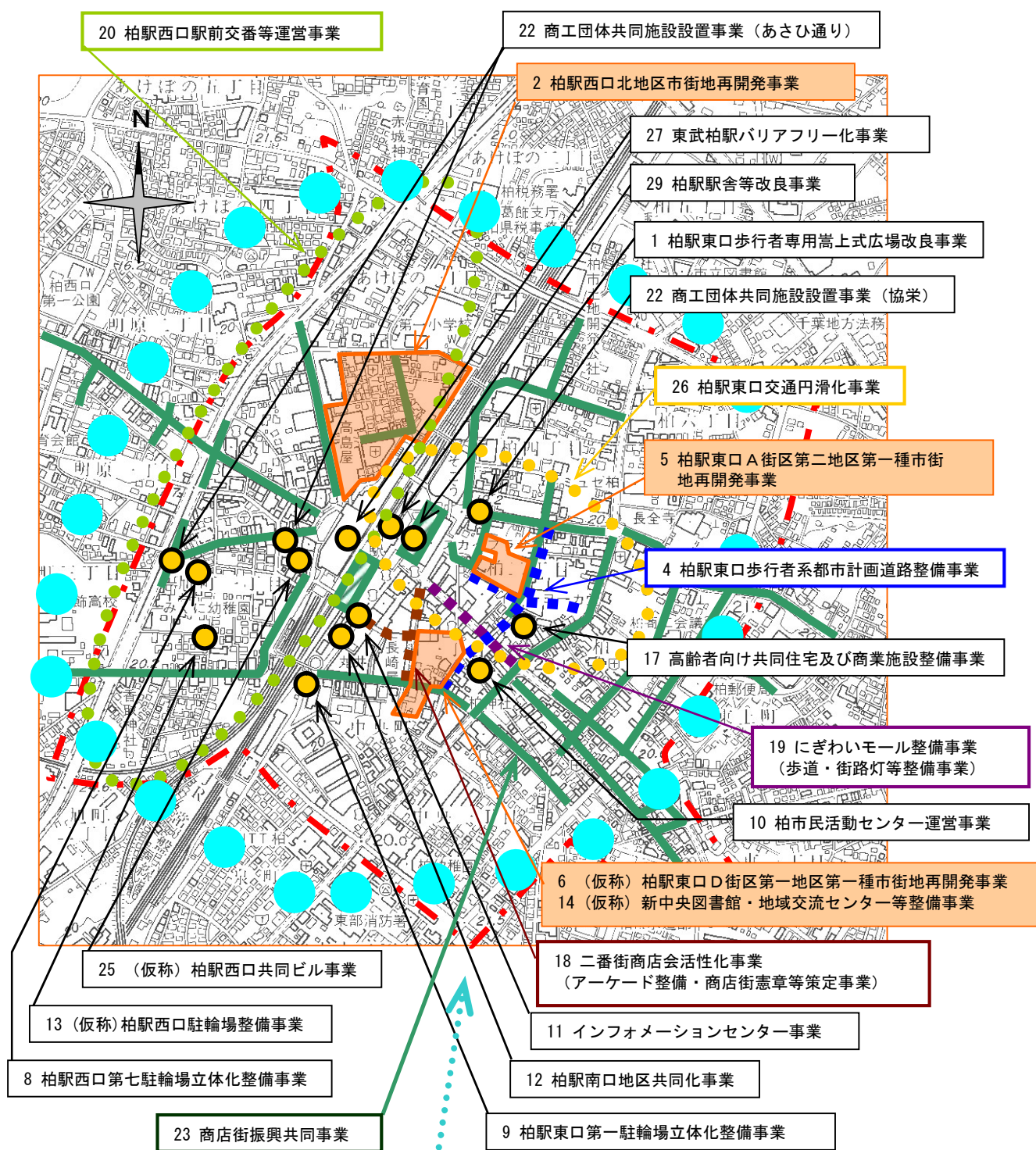
(3) 第1期計画の検証

①事業の進捗状況

平成20年4月に策定された「柏市中心市街地活性化基本計画」(以下「第1期計画」という。)で位置付けられている事業及び現時点における進捗状況等を以下に整理します。

番号	掲載章	事業名	事業内容	状況	主体
1	4-2①、8-2①	柏駅東口歩行者専用嵩上式広場改良事業	柏駅東口人工地盤(ダブルデッキ)について、バリアフリー機能の向上、荷重軽減を考慮した耐震化、景観形成等を取り入れながら改良	完了	行政
2	4-2①	柏駅西口北地区市街地再開発事業	柏駅西口北地区における段階的な市街地再開発事業の調査検討	実施中	行政
3	4-2①	放置自転車等防止街頭指導委託	柏駅周辺において、街頭指導員が自転車等の放置箇所を巡回し、放置しようとする自転車等利用者に対し、指導及び啓発	実施中	行政
4	4-2①	柏駅東口歩行者系都市計画道路整備事業(元町通り・中通り線整備事業、中通り・小柳町通り線整備事業)	市街地再開発事業と併せて、歩行者系都市計画道路整備事業	実施中	行政
4	4-3	柏駅東口歩行者系都市計画道路整備事業(元町通り・中通り線整備事業、中通り・小柳町通り線整備事業)	市街地再開発事業と併せて、電線類地中化・整備効果の高い路線の重点的な整備	実施中	行政
5	4-2②	柏駅東口A街区第二地区第一種市街地再開発事業	柏駅東口A街区第二地区における市街地再開発事業	完了	行政
6	4-2①、5-2①、6-2①、6-2②	(仮称) 柏駅東口D街区第一地区第一種市街地再開発事業	柏駅東口D街区第一地区における市街地再開発事業	実施中	行政
7	4-4	既存ビルの建て替え、改築等事業	民間の既存建築物の共同化、建て替え、改築等を行うことによる土地の高度利用化	未着手	民間
8	4-2①	柏駅西口第七駐輪場立体化整備事業	平面利用の市営柏駅西口第七駐輪場について、高度利用を図り収容台数を増強	完了	行政
9	4-4	柏駅東口第一駐輪場立体化整備事業	駐輪需要が高い駅前に近接している2層式の柏駅東口第一駐輪場の立体化	実施中	行政
10	5-2①、6-2①	柏市民活動センター運営事業	市民公益活動に関する情報の提供、相談、コーディネート、場の提供を行う	実施中	行政
11	5-2①	インフォメーションセンター事業	来街者への情報提供やまちづくり推進活動を行うをNPO法人に対する、市政情報等の案内および提供業務委託	実施中	行政
12	5-4	柏駅南口地区共同化事業	柏駅南口地区における土地の健全な高度利用による複数敷地の共同化事業、公益施設の導入と基盤整備の検討	未着手	民間
13	5-4	(仮称) 柏駅西口駐輪場整備事業	柏駅南口地区共同化事業の実施に併せて来客者の利便性の向上に資するため駐輪場を整備	未着手	行政
14	5-4	(仮称) 新中央図書館・地域交流センター等整備事業	柏駅東口D街区第一地区市街地再開発事業において、新中央図書館及び地域交流センター等の機能を有した施設を整備	未着手	行政
15	5-4	十坪ジム運営事業	空き店舗を利用し、10～15坪程度のスペースで、高齢者を中心に、トレーニングマシンを使って認知動作型トレーニングを実践	実施中	民間
16	5-4	健康福祉サービス関連事業	土地の高度利用を図ることにより創出される床、空き店舗等を利用して、高齢者支援、障害者支援、子育て支援等の施設を設	未着手	民間
17	6-2①、7-2①	高齢者向け共同住宅及び商業施設整備事業	商業施設の整備に併せ、バリアフリー化、緊急時対応サービスの利用が可能となる賃貸住宅を整備	未着手	民間
18	7-4	二番街商店会活性化事業(アーケード整備・商店街憲章等策定事業)	全蓋式アーケードをセントラルバル通りまで延伸	完了	民間
19	7-1、7-2①	にぎわいモール整備事業(歩道・街路灯等整備事業)	バリアフリーを取り入れた通りの歩道整備、街路灯具、放送設備等のリニューアル等	実施中	民間
20	7-2①	柏駅西口駅前交番等運営事業	空き店舗を活用した民間交番を設置し、商店街や各種団体等の連携による街区の夜間見回り、商店街の情報発信等を行う	未着手	民間
21	7-2①	柏駅周辺活性化イベント事業	柏駅周辺において各種イベント事業を実施	実施中	民間
21	7-2①	柏駅周辺活性化イベント事業	中心市街地で光のイベントを実施	実施中	民間
22	7-2①	商工団体共同施設設置事業	街路灯、アーチ等の共同施設の設置を行う商店会への支援	実施中	民間
23	7-4	商店街振興共同事業	販売促進事業、顧客参加事業、福祉事業等、地域との交流を通じた共同事業を行う商店会への支援	実施中	民間
24	7-2①	中心市街地活性化ソフト事業	活気・にぎわいを創出するための、イベント事業等のソフト事業を実施	実施中	民間
25	7-4	(仮称) 柏駅西口共同ビル事業	柏高島屋ステーションモール全館リニューアルと共同ビルの建設による増床と、公開空地の整備、駅からの歩道橋との接続	完了	民間
26	8-3	柏駅東口交通円滑化事業	休日の歩行者天国の実施に伴いバスの乗降場所が駅から離れているため、これを解消すべく、駅前へのバスの乗り入れの検討	実施中	行政
27	8-3	東武柏駅バリアフリー化事業	高齢者、障害者の移動円滑化を図るため、東武柏駅ホームに昇降機を設置	完了	民間
28	8-4	柏駅周辺防犯推進協会事業	柏駅周辺事業者が主体となって組織し、柏駅周辺において自主的な防犯活動を推進する団体を支援	実施中	民間
29	8-4	柏駅駅舎等改良事業	JR柏駅の橋上駅舎の改良と、併せて商業施設の整備に向けた検討	未着手	民間
30	8-4	駐車場共同利用及びITS活用事業	柏駅周辺の駐車場で共同利用を検討し、買い物客の誘導を図る	実施中	民間

第1期計画【事業箇所図】 ◇4から8までに掲げる事業及び措置の実施箇所



【中心市街地全域で実施する事業】

- | | |
|------------------|--------------------|
| 3 放置自転車等防止街頭指導委託 | 7 既存ビルの建て替え、改築等事業 |
| 15 十坪ジム運営事業 | 16 健康福祉サービス関連事業 |
| 21 柏駅周辺活性化イベント事業 | 24 中心市街地活性化ソフト事業 |
| 28 柏駅周辺防犯推進協会事業 | 30 駐車場共同利用及びIT活用事業 |

事業全体の実施状況については、全32事業の内、完了した事業は6件と全事業の約19%にとどまっていますが、実施中の事業までを含めると24件（75%）が完了・実施中となっています。

主体別では、公共主体の全14事業の完了・実施中の事業は12件（85%）、民間主体の全18事業の完了・実施中の事業は12件（66%）となっています。

また、未着手事業8件の内、民間主体事業が6件であることから、リーマンショック並びに東日本大震災による風評被害の影響により、民間事業において、今後の見通しが立てづらくなったことが考えられます。

②事業効果の状況

市街地再開発事業では「柏駅東口A街区第二地区第一種市街地再開発事業」が平成22年6月に完成し、道路整備などを通じてまちなか回遊性の向上に寄与しています。くわえて、「柏駅東口歩行者専用嵩上式広場改良事業」が平成22年1月に着手し、23年度末に完成しました。同事業は都市計画道路の整備の進捗とあわせて、まちなかの魅力向上とエリア内への歩行者の流れの改善に貢献しており、整備されたエリア付近における歩行者通行量の計測ポイントでは増加傾向をしめしており、駅前のイメージ改善に多大な効果があるものと推察されます。

民間事業においては、「柏駅西口共同ビル事業」が平成20年10月に完成し、新たな公共空間、商業床等の増加によって、小売年間販売額への貢献だけでなく、まちなかの魅力向上に寄与しています。柏駅東口の商業拠点である「二番街商店会活性化事業」は、アーケードの整備及び商店街憲章の策定を完了しており、雨に濡れずに買い回りができる特性を生かし、更に地域情報の発信機能を担う等、ハード事業とソフト事業に一体的に取り組んでいます。

また、「柏駅周辺活性化イベント事業」、「商店街振興共同事業」、「柏駅周辺防犯推進協会事業」などのソフト事業に地域一体で取り組み、魅力の向上、賑わいの創出、安全安心なまちづくりを進めています。

全体として3分の2の事業が完了又は実施することで、リーマンショックや東日本大震災に関連した風評被害の影響を乗り越え、吸引力の低下を食い止める効果があったものと推察いたします。

目標指標 1：小売年間販売額の向上

小売商業年間販売額は目標像 1 に掲げる商業活性化の評価指標であり、第 1 期計画では商業活動を平成 15 年度の状況にまで回復させることを目標とし平成 25 年度目標数値を 1,500 億円/年間と設定していた。

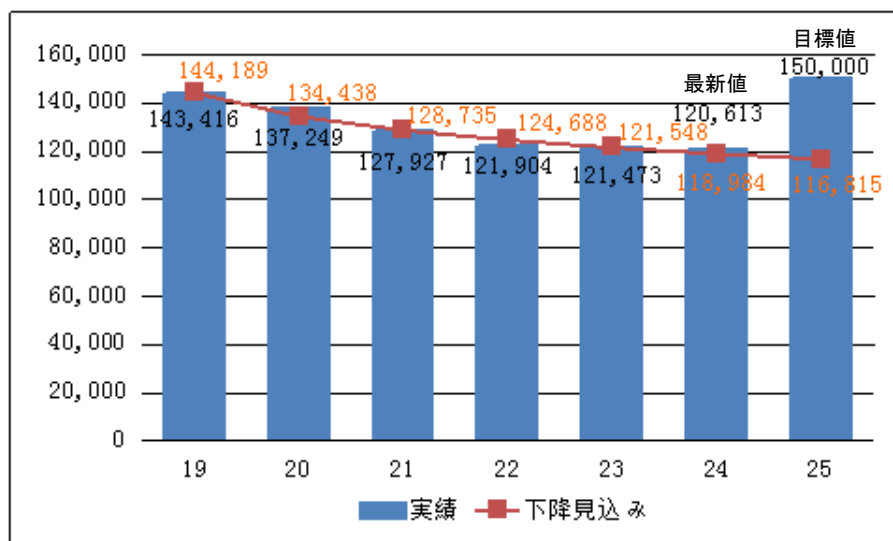
第 1 期計画の基準値は平成 19 年商業統計結果を既に 1,434 億円と設定していたが、その後の調査では、平成 24 年度、1,206 億円（推計値）と、目標達成率の約 80%にとどまり、基準値を下回っている。

要因としては、経済状況の変化により、「柏駅東口 D 街区第一地区第一種市街地再開発事業」の事業内容の見直しが生じ遅延したこと、「柏駅西口共同ビル事業」や「柏駅東口 A 街区第二地区第一種市街地再開発事業」の完成による新たな商業施設の小売面積が、顧客のニーズに合わせ飲食関係に変更し、計画で設定していた面積を下回ったことが考えられる。さらに、越谷レイクタウンや阿見プレミアムアウトレットなど、郊外型の大型店舗の進出の影響により、中心市街地内の小売年間販売額の回復には至っていない。

今後は、建替えによる対応や、景観形成などの対応により、商業施設の更新による新たな魅力の向上と、集合住宅と最寄品を扱う店舗の導入により、人口減少・少子高齢化社会に対応した多様な都市機能がコンパクトに集約したまちづくりを推進することによる商業人口の底上げを図り、商業機能の支援を行う。

そのようなことから、第 1 期計画で遅延していた「柏駅東口 D 街区第一地区第一種市街地再開発事業」を実施し、1・2 階部分に商業・業務系施設の導入を図るとともに、4 階から 27 階部を住宅施設として、にぎわいに満ちたまちづくりを進め、商業施設の更新と居住人口の増加により小売年間販売額の向上に寄与させる。

目標値①小売年間販売額



目標指標 2：歩行者交通量の増加

歩行者通行量は目標像 2 に掲げる回遊性向上の評価指標であり、第 1 期計画では、つくばエクスプレスによる柏駅乗降客数の減少分（平成 18 年度乗降客数で 5.2% 減）を、集客力強化等でカバーすることを目標に、歩行者通行量の平成 25 年度目標数値を 90,000 人/日と設定していた。

第 1 期期間中の歩行者通行量は、その後の調査結果から平成 24 年度、77,162 人/日で、目標達成率は 86% である。

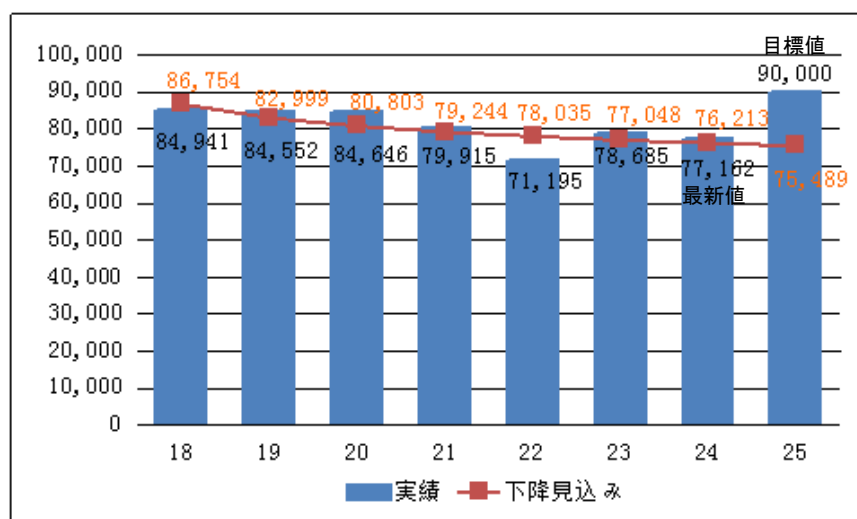
小売販売額と同様「柏駅東口 D 街区第一地区第一種市街地再開発事業」の遅延などが大きな要因になっていると考えられる。しかしながら、「柏駅東口歩行者専用嵩上式広場改良事業」が完成し、連動したソフト事業などにより魅力の向上を進めていることから、歩行者交通量は回復傾向にある。

今後も、歩行者交通量の増加に向け、柏駅東口歩行者系都市計画道路整備事業（4 路線）の実施による歩行環境の改善を進めるとともに、「柏駅東口 D 街区第一地区第一種市街地再開発事業」により、敷地内における歩行者空間の整備等を実施する。

また、集客や滞在の要因となるソフト事業に関しては、インフォメーションセンターの事業拡充や、第 2 期計画期間内に設置を予定している「まちづくりセンター」により、既存の賑わい創出事業との連携や効果的なソフト事業の展開を図る。

歩行者交通量の増加については、歩行者空間の整備を進めるとともに、より効果を高めるために目標指標 3「滞在時間の延長」について積極的に取組み、来街者の回遊頻度の増加を目指す。

目標値②歩行者交通量



目標指標 3：滞留時間の延長

滞留時間の増加については、平成 18 年度の 144 分を基準値として、平成 25 年度目標として 30 分の増加、滞留時間 174 分を設定している。

平成 25 年度の実績値では 6 分減少し、滞留時間 138 分であり、滞留時間 79%の達成率である。

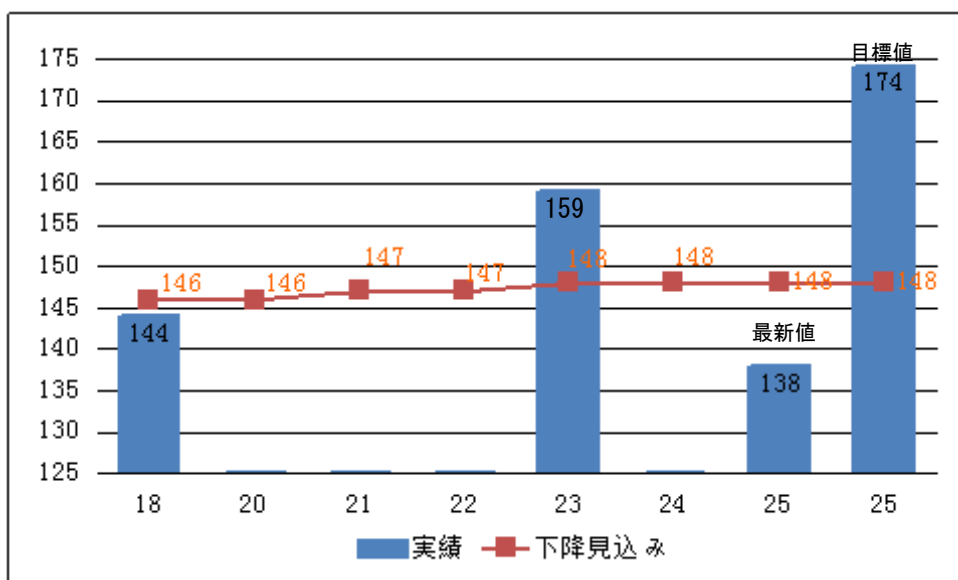
滞留時間については、上昇傾向を見せていたが、最新数値では基準値を下回ってしまった。要因としては、東日本大震災の福島第一原子力発電所事故によりホットスポットと呼ばれる地域になったこと、郊外型の大型店舗の進出の影響、個性的な店舗の減少による「柏オリジナル性の不足」によることなどが考えられる。

中心市街地内において来街者の滞留時間の延長を図ることが、中心市街地の活性化に繋がるため、既存の民間駐車場と協力して、買物特約時間（2 時間）の延長などの検討を進める。

また、「柏駅東口 D 街区第一地区第一種市街地再開発事業」において、新たに来街者用駐車場や駐輪場の整備を行い、来街しやすさの向上を図る。

なお、目標指標 2 で掲げたインフォメーションセンターの事業拡充や「まちづくりセンター」の整備などによって市民活動の機会を増やすことと、「柏駅周辺活性化イベント事業」等による市内事業者・市民団体の活動を促進していくことにより、「高質な街」の PR と集客により、滞留時間の延長に繋げていく。

目標値③滞留時間の延長



③事業の実施面からみられる中心市街地活性化の課題

民間主体事業の完了及び実施中の割合が約66%と行政主体事業のそれ（85%）と比べて低くなっており、未着手率が高くなってしまった背景には、リーマンショック並びに東日本大震災による風評被害の影響により、特に民間主体のハード事業において、今後の見通しが立てづらくなったことが挙げられます。

賑わいを創出することに貢献する民間主体のソフト事業は概ね実施中であることから、民間事業者の意欲は依然として旺盛であると推察されますので、今後も定期的に事業者と検討を続け、計画策定の支援を行いながら実施可能なスキームを構築していくことが課題となっています。

「柏駅東口A街区第二地区第一種市街地再開発事業」が完了したことにより、人口増などの活性化効果が現れています。さらに、現在「柏駅東口D街区第一地区第一種市街地再開発事業」と都市計画道路が今後整備されることにより、人口増だけでなく商業活性化への波及効果も見込まれているところです。今後は内部の人口増だけでなく、外部からの交流人口の増加に資する環境改善策についても、ソフト事業・ハード事業で一体的に進めていく必要があります。これまで整備された各エリアの有効な活用については、官民協働による事業を検討することが課題となっています。

柏駅西口周辺エリアについては、今後、第1期計画で位置づけた事業の進捗が見込まれることから、ソフト事業との連携を含めて更なる活性化策の検討が重要となります。

④中心市街地活性化に向けた主な課題

これまでの検証を踏まえ、中心市街地活性化に向けての課題を以下のように整理します。

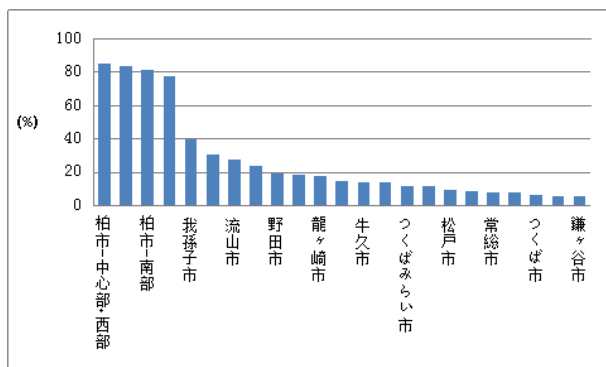
1. 広域商業拠点機能の回復と生活拠点としての賑わいづくり

「柏市商業実態調査（平成24年3月）」の結果によると、柏市商圈の吸収率は縮小されているが、柏市民の利用は増加傾向にある。また、柏駅周辺の利用者は、休日と夕方若者が多く、平日昼間は年配者が多い結果となっている。

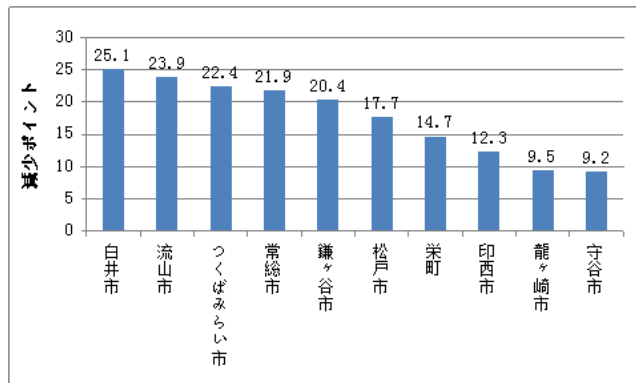
それらのことから、住環境整備を促進し、日用品や食料品など最寄品を扱う地域密着型の商店街整備を促進し、居住人口を増加することによる商業人口の底上げと、「活気がある若者向けの街」のイメージに加え、調査結果により柏駅周辺に不足している、「街並み・上品さ・安心・安全」といた洗練イメージの「大人が歩ける街」「家族で歩いて楽しめる街」といった全世代が訪れたいくなる街づくりによる広域商業拠点の回復が必要となる。

柏市商業実態調査（平成24年3月）

柏市の吸収率【居住地別】



H18 年度調査からの吸収率の減少（上位 10 地域）

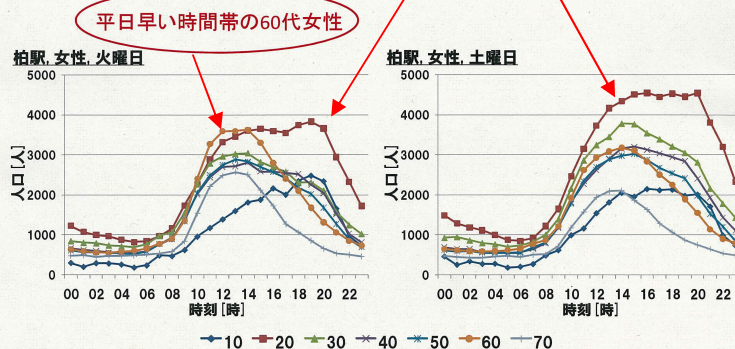


柏駅周辺 500m以内の基地局における人口

モバイル空間統計による来街特性の分析

■柏駅周辺の来街特性の分析

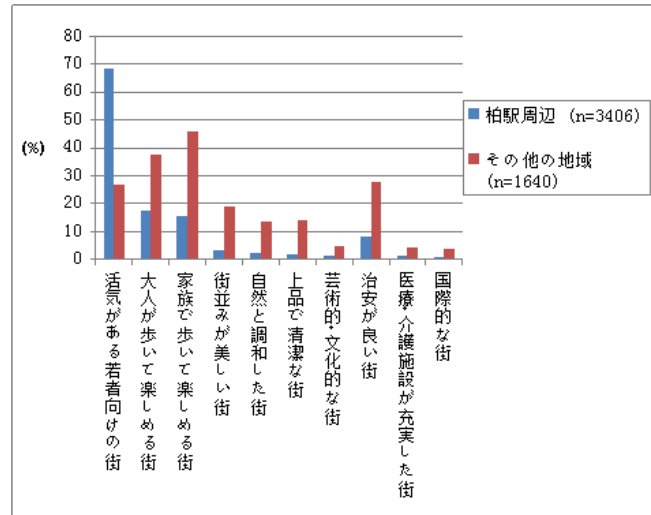
:女性年代別人口(火曜日、土曜日)



平成23年度柏市商業実態調査

13

柏駅周辺のイメージ（柏市商業実態調査（平成 24 年 3 月））



2. 歩行者空間整備と魅力ある景観づくり

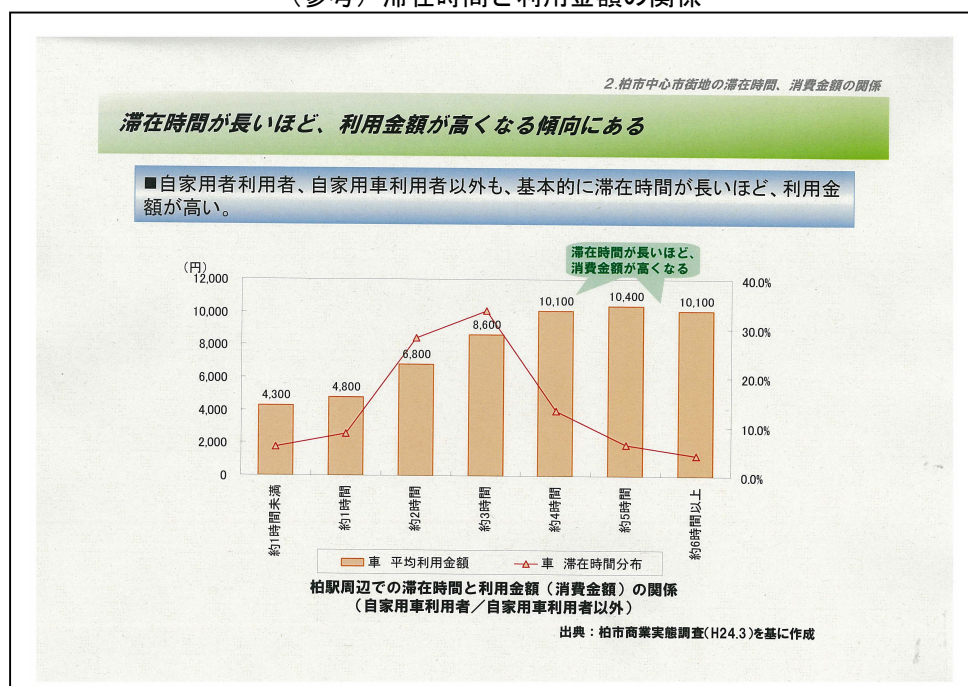
歩行者交通量の増加は、まちの賑わいに繋がっていくため、歩行者空間確保を中心とした都市基盤施設整備や放置自転車等の取り締まり強化を進め、安全で快適な歩行空間の確保が重要となる。

また、商店街景観の魅力づくりによる回遊性の向上が必要である。

3. 商店街・施設の魅力づくり

柏駅周辺の利用者は、周辺他都市と比べ、平均利用額が高く、滞在時間が長い結果となっている。また、滞在時間が長いほど、利用金額が高くなる傾向があることから、集積する店舗、多様な施設の個々の魅力づくり、ニーズに対応した施設整備を進め、快適に時間を過ごせる魅力づくりによる、来街者が楽しく憩えるまちが求められる。

（参考）滞在時間と利用金額の関係



⑤第1期計画の総括と今後の取り組み方針

第1期計画では、「若者のまち・柏」に象徴される活気にあふれる特性を活かして、「安全・安心で、ゆとりや品格のあるまちづくりにより、競合商業地との差別化を図り、広域商業拠点としての機能の維持を図る」ことを目標としてきた。

公共事業では「柏駅東口A街区第二地区第一種市街地再開発事業」が平成22年6月に完成し、道路整備などを通じてまちなか回遊性の向上に寄与している。くわえて、「柏駅東口歩行者専用嵩上式広場改良事業」が平成22年1月に着手し、23年度末に完成した。都市計画道路の整備の進捗とあわせて駅前のイメージ改善に貢献しており、まちなかの魅力向上とエリア内への歩行者の流れの改善に貢献している。

民間事業においては、「柏駅西口共同ビル事業（高島屋新館）」が平成20年10月に完成し、新たな公共空間、商業機能等の増加によって、まちなかの魅力向上につながっている。

また、「柏駅周辺活性化イベント事業」、「商店街振興共同事業」、「柏駅周辺防犯推進協会事業」などのソフト事業に地域一体で取り組み、魅力の向上、賑わいの創出、安全安心なまちづくりを進めている。



柏駅東口A街区第二地区第一種市街地再開発事業



柏駅東口歩行者専用嵩上式広場改良事業



柏駅西口共同ビル事業（高島屋新館）

しかしながら、平成25年度の現況調査では、郊外型の大型店舗の進出、リーマンショックなどの影響、東日本大震災による風評被害などの要因もあり、第1期計画で掲げている3つの目標指標はいずれも目標達成には至らなかった。

このことから、第1期計画で実施した「柏駅東口A街区第二地区第一種市街地再開発事業」における広場空間や一体で行った道路空間を有効活用して、今後もイベント事業等を行い魅力ある街づくりが必要である。さらに、まちづくりセンター設置事業による組織を確立させ、柏駅東口歩行者専用嵩上式広場や公共空間を有効活用した、オープンカフェ等による施策や、官民協同による事業を行い、全世代が訪れたくなる街づくりを行うことが必要である。

また、まちづくり機運が高まってきた「柏駅西口北地区市街地再開発事業」が、現在実施中である「柏駅東口D街区第一地区第一種市街地再開発事業」の完了後に事業化を行い柏駅周辺の施設を更新してさらなる街の成長を行えるよう地区への支援が必要である。

よって、平成25年度時点においては第1期計画期間内で設定した目標を達成するには至っていないが、中心市街地の活性化は不可欠であり、今後も継続して活性化に向けた施策を実施していくことが必要とされるため、第2期計画を策定する方針である。

平成25年度柏市中心市街地活性化意識調査業務委託結果

[Q1]Q1 柏市では、平成20年度から平成25年度までの「柏市中心市街地活性化基本計画」を策定し、柏駅周辺(駅から徒歩5分程度)における活性化事業を行ってきましたが、この計画を知っていましたか？(回答は1つ)

(度数+横%)		
	度数	%
TOTAL	1258	100.0
知っていた	234	18.6
知らなかった	1024	81.4

[Q17]Q17 柏駅周辺(駅から徒歩5分程度)の賑わいを維持・向上させていくために、「第2期柏市中心市街地活性化基本計画」を策定し、今後も、駅周辺の道路整備やイベント事業等を行っていく必要があると思いますか？(回答は1つ)

(度数+横%)		
	度数	%
TOTAL	1258	100.0
今後も活性化事業を行った方がよい	749	59.5
もう活性化事業は必要ない	101	8.0
わからない	388	30.8
その他 具体的に:	20	1.6